

名門高校の校風と人脈

45

鴨沂高校〈上〉（京都府立・京都市上京区）

日本で初めての公立女学校 芸能界に多彩な人材輩出

本で最も古い同窓会だろう。「府一」の卒業生は現在では80歳以上になってしまったが、同窓会館を拠点に各種の公開文化講座を定期的に開いたり奨学金制度を設けるなど活発な活動が続けられている。

「紫式部だって府一の前のこの小川の側の道で、通っていたはず……」。「府一」卒業の女性たちは、こんなモノ言いをよくする。「そのあたりの女学校とは違うのだ」と言いたいのである。だから、エリート臭が強すぎると感想を漏らす人もいる。

京大合格者トップ

戦後は、48（昭和23）年の学制改革に伴って新製の府立鴨沂高校になり、男子を迎え入れた。50〜60年代にかけて京都大への合格者が増え、61（昭和36）年には59人にのぼった。現役が17人でこの内、女子が4人いた。京大合格者数でトップ校となった。戦後は、進学でも名門校に言っていたのである。

新制高校がスタートした時、GHQ（連合国軍総司令部）の方針に沿って、京都府教育委員会は「高校三原則」

じては日本でもっとも古い女学校が京都に創立された。

明治天皇が視察

「おうき」高校という。「沂」とは水ぎわの意味である。キャンパスは、京都市の中心部を北から南に流れる鴨川の西500メートルにある。京都御所内の仙洞御所のすぐ東側にある、と言ってもいい。

京都は日本文化の凝縮である。その京都で、明治維新からたった5年後に女子教育に門戸が開かれたことは、画期的だった。開校1カ月後には、

前身の京都府立京都第一高等女学校が設立されたのは1904（明治37）年だが、そのルーツをさかのほれば1872（明治5）年設立の「新英学校及女紅場」という女学校にたどりつく。明治5年といえば、明治政府が初めて近代学校制度を定めた教育令である「学制」を發布した年である。これに呼応し、公立と

京都の町衆は明治の夜明け、日本で最高の民度を備えていた。文明開化を先取りするかのように、町民が拠出して小学校をあちこちに作ったほどである。多少とも裕福な町民は、「良妻賢母」教育を標榜するこの女学校に競って娘を送り込んだ。

NHKの2013年の大河ドラマ「八重の桜」の主人公・

当初は華士族の子女が対象だった。まず78人が入学、すぐに平民の娘の入学も許され生徒数は159人になった。英語のほか裁縫、手芸、算術、習字、和漢学などの科目があった。

山本八重も、会津（福島県）を飛び出して上洛し、この女学校で教えていた。同志社女学校をつくった新島襄と再婚する数年前のことである。鉄砲の打ち方と並行して会津で機織り、小笠原礼法を学んでいた八重にはうってつけの仕事だったのかもしれない。

やがてこの旧制高女は、京都市民の間で「府一」の略称で親しまれるようになった。「府一」出身の女性たちの誇りは高く、結束はめっぽう強い。同窓会が1887（明治20）年に組織されている。男子だけの名門旧制中学校を前身に持つ高校も含め、おそらく日

名門高校の校風と人脈



山本富士子

高校間格差はなくなつたものの、優秀な生徒は6年制一貫の私立に流れ、公立高校の大学合格実績は不振に陥つた。「高校教育は大学受験のためにあるのではない」「いや、

を打ち立てた。男女共学、1校に普通科と職業科を併設する総合制、1学区に1校の小学区制である。北関東などの公立伝統高校は今にいたるも男女別学で必ずしも三原則に従わなかったが、京都府立、京都市立の高校は、かたくなに三原則を守つたのであつた。

さらに60年代から80年代半ばまで京都では高校全入運動が続いた。高校進学率の上昇に合わせて、だれでも高校までは問題なく進学できるようなしたのである。7期28年も京都府知事をした蜷川虎三(旧制東京府立第三中学・現都立両国高校卒)はこれを「15の春は泣かせない」と表現した。



森 光子

高校間格差はなくなつたものの、優秀な生徒は6年制一貫の私立に流れ、公立高校の大学合格実績は不振に陥つた。「高校教育は大学受験のためにあるのではない」「いや、

18の春に泣かされる」と養舌両論で沸騰した。「学校群制度」の導入により東京都内の公立高校は地盤沈下したが、京都の公立高校も同様の現象が起きたのだつた。

「昭和の美女」

特筆すべきは、旧制第一高女・鴨沂高校を通じ著名な女優や男優を輩出していることである。しかも芸を磨いた、その道のプロたちである。

まず山本富士子である。天下の美女と謳われ、昭和時代の美人の代名詞になった女優である。31年生まれ。大阪府立大津高女(現泉大津高校)から「府一」に転校してきた。校名は在学中に鴨沂高校に変わったが、「急に男女共学にな



沢田研二

り学校生活もしばらくは落ち着かなかつた「男子学生から……レプレターのような手紙をいただいた」(2002年12月8日『日本経済新聞(私の履歴書)』)という。

50(昭和25)年の第1回ミス日本コンテストに選ばれたのがきっかけとなって、映画界入りした。53(昭和28)年から63(昭和38)年にかけて多くの映画で主演したが、山本を締め出す映画業界の「五社協定」によって銀幕から遠ざかり、テレビや舞台で活躍した。

山本より約10年前には、文化勲章受章の女優・森光子も「府一」に1年生の1学期だけが通っていた。山本とは違つて映画出演は少なく、テレビドラマや舞台での活躍が多かつた。「放浪記」の舞台公演は2017回を数え、09年には国民栄誉賞を授与された。

「芸能界の母」のような存在だったが、昨年11月に92歳で死



田宮二郎

去した。新制卒になるが、東宝の看板女優になった団令子も卒業しているし、宝塚歌劇団出身の女優・加茂さくらが鴨沂高校を中退している。

男性では、歌手、俳優、作曲家として活躍している沢田研二が、鴨沂高校を中退している。60年代後半のグループサウンズ全盛期に「ザ・タイガース」として人気を博し、一躍、国民的なアイドルスターとなった。グループは71(昭和46)年に解散したが、沢田はソロ活動を続けてきた。13年12月にオリジナルメンバー5人で「ザ・タイガース」を再結成し、44年ぶりに公演活動を予定である。

「昭和のクールガイ」といわれ、大映の看板俳優として活躍した田宮二郎もOBである。田宮と団令子は、51(昭和

「昭和のクールガイ」

和26)年入学の同期生だが、卒業後約10年たって再会した時に田宮は「鴨沂高校で名だたる美女だつた。この全校の人気者を僕は良く知っていたが、彼女は学生服を着た僕をどうしても思い出せないらしい」(『文藝春秋』63年9月号)と、記している

映画監督では湯浅憲明、上方落語の名跡で落語家タレントのはしりであった森乃福郎も卒業生である。86(昭和61)年生まれの一和洋輔は、劇団四季所属のミュージカル俳優である。

重森三果は小唄、三味線の和楽アーティストである。江戸浄瑠璃新内節の家元継承者で舞踏会や演奏会に出演し、最近ではテレビや映画で和楽指導者としても活躍している。また伝統芸能では、大蔵流狂言方能楽師の木村正雄が卒業している。

鴨沂高校が著名な芸能人を輩出した背景には、大映、東映などが京都市内に映画撮影所を設け、時代劇のロケ地にもなったことが影響しているだろう。

(猪熊建夫・ジャーナリスト)
(敬称略、会社名・肩書などは当時。今回は鴨沂高校(下))

名門高校の校風と人脈

46

鴨沂高校〈下〉（京都府立・京都市上京区）

日本画、伝統工芸などに逸材 文系、理系に優れた学者も

前身の京都府立京都第一高等女学校が日本で最古の公立女子教育機関だったという伝統を持つ鴨沂高校。著名な芸能人を輩出していることを前週に紹介したが、芸術・学問、研究の分野でも多くの逸材を送り出してきた。

貴重な美術品

日本画の三谷青子と上村淳之が卒業生である。淳之は、美人画の大家で1948（昭和23）年に女性として初めて文化勲章を受章した上村松園が祖母、母に続いて史上初の2代にわたる文化勲章受章

（84年）の上村松篁が父という、日本画サラブレッドの家系である。3代続いでての芸術会員で、淳之は3代の作品を展示する松伯美術館の館長も務めている。

140余年の歴史があるため、鴨沂高校には多くの貴重な美術品や文書が残されているが、その中には上村松園が描いた「夕暮」（41年作）もあ



上村淳之

る。戦時中の文展に出品され、その後、京都府立第一高女に寄贈された日本画である。

京都画壇にはやはり女性で文化勲章を受章した日本画家の秋野不矩（静岡県立二保高等女学校・現二保高校卒）がいた。秋野は5男1女の母だった。長男葵巨矢（編集者）は同志社高校卒だが、次男亥左幸（絵本作家）、三男子弦（陶芸家）、長女鞠子（絵本作家）、四男矩之（橋梁技術者）、五男等（陶芸家）の5人が新制鴨沂高校を卒業している。「いかにも京都」という仕事に就いている卒業生もいる。清少納言の「枕草子」には「雪

は椀皮葺 ひただき いとめでたし」の一節があるが、宮川友一は社寺屋根椀皮葺の伝統技術の保持者である。1712（正徳2）年を初代とする椀皮屋弥兵衛から数えて10代目で、この人物がいなければ京都の社寺仏閣の伝統文化財の屋根の葺き替えはままならなくなる、という存在である。

西村時枝は、京都の老舗旅館・校家の大女将である。橋本憲一は京都市内の料亭梁山泊の店主で、京料理の創作に余念がない料理人である。

漆工芸作家の番浦鴻蔵、京人形師の片岡行雄、西陣織の認定伝統工芸士の堀口雅男、

和風ミニチュア家具を製作する「手のひら工房」代表の畑中義明らも卒業生である。

学者のDNA

小説家では、在日韓国人2世の李良枝が89年に『由熙』で芥川賞を受賞している。作品は韓国語や中国語でも翻訳出版されている。鴨沂高校卒業後に早稲田大に進学したが、すぐに中退し、ソウル大学を卒業した。37歳で死去した。

小川幹雄は海外公演、全国公演を含め、演劇、ミュージカル、伝統芸能、コンサートなど幅広い分野で舞台監督を務めている。作曲家では、多くのCMソングやアニメ、映画音楽を作曲した嵐野英彦や、ダークダックスの音楽監督をした白石哲也がいる。旧制卒ではピアニストの安田信子、土肥みゆきらも。

学者・研究者で著名なのは



李良枝

名門高校の校風と人脈



貝塚啓明

演劇学者・劇作家の山崎正和である。文芸評論から領域を広げ、むしろ文明評論家と言った方がふさわしい人物である。企業メセナやボランティアの概念を日本に普及させた一人でもある。

考古学者の猪熊兼勝は、奈良県明日香村のキトラ古墳の調査で初めてファイバースコープを使い玄武図を発見した古墳の調査研究の第一人者である。

財政学者で政府の各種審議会の委員をした貝塚啓明は、学者のDNAを持っている。父は中国史学者で文化勲章を受章している貝塚茂樹（旧制京都府立京都第一中学・現洛北高校卒）、叔父は物理学者で日本人のノーベル賞第一号受賞者の湯川秀樹（同）である。農芸化学が専門の上野民夫は農業研究の権威であり、食の安全問題に取り組んでいる。鴨沂高校同窓会の会長をしている。高月校は環境学者

で、自ら環境漫画を描いている。

トインビーの研究をした比較文明学者の吉沢五郎、中国近世史の阪倉篤秀、国語学者でエッセイストの寿岳章子、日本美術の研究で上村松園研究の第一人者である加藤類子、英文学者の久代佐智子らもOB、OGである。

さらに数理解析学者で国際数理物理学会会長を務めた荒木不二洋、生物学者で淡水生物の生態を研究した川那部浩哉、水工水理学者の長尾正志、分子生物学の大山美爾、精密工学の清野慧、歴史人類学の西田正規、木材資源の研究をしている川井秀一、生体分子化学が専門で昆虫の研究をした山岡亮平、ビール醸造研究家の橋本直樹らがいる。

金沢箔工芸品

医学・薬学の分野では、循環器内科が専門で東京女子医科大学大付属病院長をした細田瑛一、漢方薬の研究で日本薬科大学学長をした木村幸彦、世界の長寿食文化の研究をした病理学者の家森幸男、肥満症の専門医である吉田俊秀、リウマチや膠原病の専門医で

ある佐野統らが卒業している。

経済界で活躍した卒業生では、松下電器産業（現パナソニック）の副社長をした村山敦は、そのあと関西国際空港の社長になった。田中辰郎が高島屋の社長を、近藤勝重はダイエーホールディングスコーポレーション社長を、越村敏昭は東京急行電鉄会長をした。塚本能交はワコール（現ワコールホールディングス）創業者の長男で、現在は2代目の社長をしている。

浅野邦子は、金沢市で金箔工芸品の会社・箔一を創業した。金箔はほとんどが金沢で生産されながら工芸材料としてしか扱われてこなかった。浅野は一念発起して美術工芸品に仕立て上げ、「金沢箔工芸品」というブランドに育てた。

京都市の西村製作所は日本初の天体反射望遠鏡を作った会社だが、西村有二はその4代目社長をしている。中西健



塚本能交

夫は家業のナカニシヤ出版を、京都から文化を発信するユニークな出版社に育て上げた。

経営評論家の江坂彰はサラリーマン物の著作を多く出している。谷口正和はマーケティング・コンサルタントである。

俳優の前島幹雄は、サハラ砂漠8400キロを487日間にわたり徒歩で世界初の単独横断に成功している。

25畳室内プール

旧制京都府立一女（府一）・新制鴨沂高校の卒業生には、姉妹・兄弟そろって卒業生という例が多い。秋野不矩の子どもについて前述しているが、他のケースも挙げてみよう。

本草学の権威で北海道薬科大学学長をした木島正夫の生家は、江戸時代中期から続く京都の商家で「京都御倉町文書」を保存していた家として歴史学者の間で知られている。その木島の妻・多美子は、5姉妹全員が府一卒である。長女栄、次女君子、三女律子、四女多美子、五女恵美子で、他に3人の男兄弟がいたがそ

の内2人の妻も府一卒であった。

著名な人物の賢夫人として知られた卒業生も多い。東洋紡社長をした谷口豊二郎の夫人・きぬ、京都大総長をした奥田東の夫人・恒子、中国文学の碩学であった吉川幸次郎の夫人・不知らを挙げられる。

日本最古の公立女学校という伝統を持つため、鴨沂高校には美術品などがたくさん残されていることを前述したが、校舎もなかなかの由緒がある。3階にある講堂はかつてヘレン・ケラーが講演した場所だし、女子学校なので肌をさらさないようにと日本最古の25畳室内プールもある。その校舎は35（昭和10）年にできた和洋折衷の鉄筋コンクリート建てで、昭和モダニズムを取り入れたアーチ型小窓などがある粋な造りである。しかし2013年秋から解体され、建て替えられることになった。老朽化し耐震補強が無理なためである。鴨沂高校のキャンパスは数年間、2ヶ所ほど北西に移る。（猪熊建夫・ジャーナリスト）（敬称略、会社名・肩書などは当時。今回は群馬県立高崎高校）